

別するときには、先づ六人種と爲すべきか。曰く纏頭回、哈萨克、漢回、漢人、滿人、蒙古、是れなり。而して更に其の總人口、約二百萬人を此の六人種に配すれば、大凡纏頭回百萬人、漢回三十萬人、漢人三十萬人、哈萨克二十五萬人、蒙古十萬人、滿回五萬人と看るも大差なかるべし。

纏頭回

纏頭回とは、回々教即ちマホメツト教を奉じて、禮拜の時、頭部に白布を纏ふの習慣あるが故に此の名あり。歐人は之を東土耳其斯坦人と稱し、原と「アリアン」人種の一種族たる波斯人なりしが、古來屢々東西各人種に征服せられ、其の都度混交に混交を加へ、次第に彼等が素質を變じ、以て現今見る所の如き雜種の一民族となりしに似たり。

口碑の傳ふる所に據れば、哈密、吐魯番の纏頭回は純然たる蒙古族なりしが、元末に回教に歸依して後、言語風俗共に纏頭回同一に改めしものなりと、其言語の訛り多きと其容貌の蒙古族に酷似する點より考ふれば或は然らんか。

因に記す、伊犁に住する纏頭回民を稱して「ダランチ」とは回語集り者の意、即ち南路各地より伊犁に移住せし纏頭回民の稱呼なり、然るを某書